

平成 22 年度（第 1 回）

大垣市スポーツ振興審議会 会議録

▽日 時：平成 22 年 6 月 25 日（金）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで

▽場 所：（市役所北庁舎）教育委員会室

▽議 題：「大垣市スポーツ振興計画」の策定について

▽出席者（敬称略）

（委員）堤 俊彦〈会長〉

大石 毅、臼井正明、安田卓美、長谷川郁代、高橋美和子、小川修司、  
早野正美【計：8 名】

（市及び事務局）

内田一之（教育長）、北村武久（教育委員会事務局長）、佐久間健（社会教育スポーツ課長）、守屋明彦（庶務課課長補佐）平松善幸（社会教育スポーツ課課長補佐）、伊藤充貴（社会教育スポーツ課）、川合海乃留（社会教育スポーツ課）、近藤哲也（庶務課）【計：8 名】

▽欠席者（敬称略）

（委員）高橋正紀、牧野安孝【計：2 名】

▽傍聴者：無

---

<審議会開会>

（事務局）※開会にあたって

（会長へ議事進行をお願いするまでの間、議事進行）

<あいさつ> 教育長挨拶（略）

<議事進行については、大垣市スポーツ振興審議会設置条例第 6 条第 3 項の規定により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。>

（堤会長）

※欠席委員の報告

※審議会公開の報告

※事務局に対し、スポーツ振興計画の策定趣旨及び策定スケジュールについて、説明を依頼。

（事務局）

※「大垣市教育振興基本方針」及び「資料 2：大垣市スポーツ振興計画策定スケジュール（案）」に基づき、説明（略）。

(会長)

当審議会を3度開催し、以前にこの審議会で作ったスポーツ振興計画を見直していくということで、今日は、計画の説明を受けるのが主で、時間があれば、意見交換もしていきたい。

会議は、あと2回あるので、それぞれ資料を読んでもらい、事務局に質問するなどして、次の会議の時には、私案を出してもらいたい。

説明のあったスポーツ振興計画策定の趣旨及びスケジュールについて、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

(各委員)

※意見なし。

(会長)

※事務局に対し、スポーツ振興計画(案)について、説明を依頼。

(事務局)

※「資料3：大垣市スポーツ振興計画(案)」に基づき、説明(略)。

(会長)

説明のあったスポーツ振興計画(案)について、感想を含め、ご意見、ご質問があれば、お願いしたい。

(委員)

平成18年度まで保健体育課に在籍し、この振興計画の元になるものを、先に作られた体育連盟の4次総を参考にして作った。今回の計画は、それを基に作られており、作った甲斐があった。

大垣市の場合、県から総合型地域スポーツクラブを作れと言われても、体連という強い組織があり、市民が簡単にスポーツのできる仕組みとして、体連や体振がすでに総合型地域スポーツクラブの機能を果たしている。

体連は、4次総を基に動いており、市の計画で別個のものは作れない。大垣型のスポーツ振興は、まさにこの形である。

(会長)

体連の4次総は、すでに実施中で、生涯スポーツの振興も競技力の向上もすでに動いている。他市よりもずっとスポーツ環境は進んでいる。

(委員)

振興計画は、市が単独で作るのではなく、体連と一緒に動かなくてはダメ。体連の計画と整合を取りながら、やらねばならない。

(会長)

体連の4次総の数值目標を参考に、計画(案)は作られているから、大きくズれていることはない。

(委員)

大垣市スポーツ振興計画は、体連と市が作られて、すでに大変すばらしいものができていると思う。

この計画の中で気になるとすれば、小・中・高までの一貫的な指導について、理想的ではあるが、具体的にどうするのかを考えていかなければならない。

(会長)

その通りである。

具体的な話をすれば、赤坂中の柔道部がなくなり、今は西部中に練習に来て、耐酸壘の社員が教えている。

実は赤坂中に、もう一度柔道部を作ってくれと頼んでみたのだが、学校の壁がある。部を作ったとしても、今の生徒が卒業したら、また部員がいなくなる、と言われている。

(委員)

先生ではなく、地域で指導してくれる人をデータベース化して、人材を確保していく。それが、指導者の育成にもつながるのではないか。

(会長)

地域にどういう人がいるのかをデータベース化するのはいいことだが、個人情報保護の関係もあるので、難しい面はある。

(委員)

中体連の課題は、少子化、クラス減、職員減による、部活数の減。

中学の男子バレー部は、市内で1校しかいないため、最初から西濃大会へ出場できてしまう。全国的な現象として、近隣の学校同士で合同チームを作ったりしている。

最近の子どもは、きついことを避ける傾向があり、部活に入るにしても、楽な部を選んでいる。

(会長)

連合体育振興会においても、地区で行う事業に中学生を集めるのに苦労している。

(委員)

最近の子どもについて、しゃがめない、手足が上がらないなど、身体が硬いことが、医師会での課題としてある。そのため、平成 17～18 年頃に、学校検診の中に、運動器検診を加えた。

部活動などは、良い指導者がいると強くなる。西高のラグビー部がいい例。

また、資料の運動実施率のグラフを見ると、難しいとは思いますが、20～30 歳代の底上げを図れば、60%の実施率に届くのではないかと。

(委員)

20～30 歳代は、スポーツをしたいと思っているが、仕事や子育てに忙しく、できない現状である。

(委員)

60 歳代以上で運動実施率が高いのは、老人連合会などが、軽スポーツやウォーキングを推進しているからだろう。

(委員)

企業・職域の体育振興は、生涯スポーツの部分だが、競技人口の減少や、企業が運営できないこともあり、ソフトボールを例に挙げれば、昔は 28 チームあったのが、現在は 7～8 チームに減少し、もはや増えることはない。

ひとつの会社でチームができなければ、A・B社の連合で作ったり、グループ会社でひとつのチームを作ってもらうなど、掘り下げていきたい。

運営も維持するのも大変だが、志は高く持っていたい。

(会長)

20～30 年前、自社では、職場対抗のソフトボール大会があったが、今はまったくない。

(委員)：

情報の入手の多様化などで、人と触れ合わなくてもすむ社会になってしまった。ゆとり世代なのか、年々そういう傾向になっている。

また、親の世代の理解がない。少しずつ変えていくような努力が必要である。

(会長)

最近の子ども達は、他人と直接関わるのがイヤ、メールでやり取りしたことで、他人と関わったことになってしまっている。

本人は、それでコミュニケーションを取ったつもりでいる。

(委員)

学校においては、スポーツを強制的に室外で行ってほしい。

(会長)

社会人になる前に、そういう教育を学校でしてほしいという意味か？

(委員)

大きくいうと、そういう意味である。今の大学卒は、高卒程度の能力しかない。

(会長)

企業で、もう一度、新入社員を鍛え直さなくてはならない。

入社時には、始業5分前に席についていない社員が少なくない。社会人として、自立していない。

(委員)：

資料の運動実施率のグラフを見ると、女性が育児する頃に、実施率が低いようだ。スポーツを行うのに抵抗があるようなので、しやすい環境づくりが必要だ。

体連のテニス教室では、託児を今年から始めて、盛況である。受け皿の用意が必要。

子育て世代においては、スポーツ教室で交流することで、リフレッシュし、また子育てに励めるなど、精神のケアにもつながる。

男性はスポーツに参加しやすいが、女性は、まだ夜遅くまで参加できないなどの制約がある。家庭でも、そういう支援をしていかないといけない。

少年団の加入率は横ばいだが、民間のスポーツクラブの子どもの教室、運動塾は大盛況で、高いお金をかけても運動をやらせたいと、親は考えている。

(委員)

少年団に入る前の子どもたちの運動教室が大人気。

三城地区センターや綾里地区センターで、民間がマットや平均台を持ち込んで行っている教室が大人気。

(会長)

それを全地区センターで行えば、市の運動実施率も競技力も上がるのではないか。

(委員)

荒崎幼稚園では、岐阜聖徳大学からスポーツの指導者に来てもらい、好評である。

(会長)

少年団に入る前の子ども達を対象としたスポーツ教室は、子育て日本一にもつながる。

体連としても考えている。

(委員)

それを小学校、中学校と繋げていけると良い。

(会長)

それには、すべてを理解した指導者が必要だ。

(委員)

少年団は、競技重視なので、ボール遊びなど、子どもが遊び始めるものがあるといい。

(会長)

体連と経済大学が提携して、「おおがきっすスポーツスクール」という教室を作った。

(委員)

小学校1・2年生を対象に、40人の予定で、10回で3千円、7月1日からの開始。

(委員)

体連・経済大学・職域の人の中には、子どもに指導したいと思っているが、その場がない、と考えている人がたくさんいる。

どこかで教えたい、教えてもらいたい、というニーズに対して、どこが窓口で、また媒体としていけるか、声をかけていけるかということが重要。

行政も交えて、過小でもいいので、そういったものをこの1~2年で立ち上げたい。この振興計画とは別でも構わないので、たたき台だけでも作りたい。大きいものは難しいので、小さいことから良い。

(会長)

企業の中にも、指導したいという人は、たくさんいるだろう。

(委員)

そういった情報の収集については、それこそITがある。社内メールで、「手を挙げて」と一斉に流せば済む。

(会長)

我が社の社員は、ハンドボールなどを、南中学校や西部中学校に教えに行っている。

会社としても、社外で社員を育ててもらっていると考えている。社外に指導に出て、自信をつけている社員もいる。

(委員)

企業も、いわゆる他流試合をどんどん進めなければならない。我が社でいうと、トヨタへ出向させるなど。

(会長)

指導することで、自己啓発にも繋がる。

(委員)

次回の開催の案内時には、何について話し合うか、議論として進めるべきことは何か、などを提示してくれると、審議会の時間を有効に活用できるので、お願いしたい。

(会長)

事務局に負担をかけることになるが、会議の10日前には、「こういうテーマで話し合いがしたいので、意見を出してほしい」といった案内が欲しい。

審議会の時間も短いし、次回の11月まで4カ月以上あるので、そういう準備をお願いしたい。

なお、次回、第2回の審議会は、11月1日の15時～16時半にお願いしたい。

(事務局)

ただ今のご意見をはじめ、本日のご意見を基に、新しい資料を準備して、事前を送付いたします。

<審議会閉会>